

## カーヤこども食堂 活動報告書

開催場所 京都スパイスカレーKAAYA

参加費 こども 無料 / 保護者 300 円

開催日 2022 年 11 月

4 日、11 日、12 日、18 日、23 日、25 日

★4 日 14:00～17:00 「おやつのじかん」

おやつ 手作り (フレンチトースト、プレーンマフィン、チョコマフィン、さつまいも蒸しパン、焼きおにぎり、白ごまクッキー、ココアクッキー、きなこのクッキー)、柿、麦茶、りんごジュース

参加者 こども 11 名 保護者 0 名

★11 日 14:00～17:00 「おやつのじかん」

おやつ 手作り (フレンチトースト、チョコマフィン、さつまいも蒸しパン、焼きおにぎり、白ごまクッキー、ココアクッキー、きなこのクッキー)、柿、麦茶、りんごジュース、みかんジュース

参加者 こども 22 名 保護者 0 名

★12 日 16:30～18:00 フード・パントリー

お菓子 30 袋、カップ麺 44 食、調味料 23 本、ジャム 2 つ、ジュース 3 本、天ぷら粉 3 袋、パン粉 1 袋、から揚げ粉 1 袋、塩こんぶ 1 袋、日本茶 20 袋、柿

40個、クレープの素30袋、鍋つゆ10袋、イワシせんべい2kg、スタバホリデーギフト30セット、お米60kg、

参加者 11世帯 こども21人 保護者12人

★18日 14:00～17:00 「おやつのじかん」

おやつ 手作り（フレンチトースト、ココナッツマフィン、焼きおにぎり、白ごまクッキー、チョコクッキー、きなこのクッキー）麦茶、みかんジュース

参加者 こども 9名 保護者 0名

★23日 11:30～19:30 「カレーの日」（予約制）

食事 チキンカレー、レタスとわかめのスープ、麦茶

※卵、乳は不使用

配布 みかん、ハンドクリンなど衛生用品

参加者 こども 24名 保護者 12名

★25日 14:00～17:00 「おやつのじかん」

おやつ 手作り（フレンチトースト、ココナッツマフィン、焼きおにぎり、白ごまクッキー、チョコクッキー、きなこのクッキー）、麦茶、りんごジュース

参加者 こども 12名 保護者 2名

ご支援 お米 10kg X 2袋、5kg X 30袋、3kg X 2袋、1合=3名、2合=1名  
たねなし柿40個、みかん104個、スタバホリデーギフト30セット、カップス

ープ 3 袋、クレープの素 30 袋、鍋つゆ 10 袋、コーン缶 24 缶、緑茶 50 袋、お菓子 6 袋、チョコ 3 個、りんごジュース 24 本、バナナ豆乳 24 本、ペットボトル飲料 4 本、アイスコーヒー 3 本、調味料 8 本、食用油 2 本、顆粒スープ 1 つ、あんかけの素 1 つ、砂糖 1 箱、からしマヨネーズ 1 本、トマトケチャップ 1 本、トマト缶 2 缶、片栗粉 2 袋、金時豆 2 袋、大豆水煮 5 袋、ソフトパン粉 2 袋、たまねぎスープ 1 袋、道明寺粉 1 袋、ハヤシソース 1 袋、おかき 1 箱、手作りの虫 15 匹、絵本 9 冊、生理用品 35 袋、寄付金 3,000 円、缶バッジ 3 個 900 円

今月は店内飲食と持ち帰りをあわせて、延べ人数こども 99 名と保護者 26 名で合計 125 名の参加がありました。フード・パントリーでは、お米や果物、乾物などの食品、調味料、お菓子、ハンドクリンなどの衛生用品を参加者に配布しました。

今月も、継続して食材などを支援してくださる個人のサポーターや、フードバンクと NPO 団体の方々、参加者によるボランティアにお世話になりました。

今月が終わったところで、カーヤこども食堂が始まってから 1 年の節目を迎えました。昨年から引き続き参加してくれている家庭のほか、月を追うごとに、特に夏休みの時期を堺にこども食堂の存在が広く認知されるようになり、「カレーの日」、「おやつのじかん」とともに、席数や厨房の大きさ、時間的な限界など物理的な壁を感じる場面が増えてきました。

「おやつのじかん」は先月からシステムとルールを新しくしたので、「カレー

の日」も今月から新しい開催方法に変更することにしました。カレーの日にはフード・パントリーを行わず、テイクアウトの対応をやめ、一組が席を専有できる時間を短縮して、なるべく希望者を断らずに受け入れられるようにしてみました。しばらくこのやり方で様子を見たいと思います。

ただ、開催方法を変えると新しく来られるようになる人がいる一方で、様々な点が障害となり来られなくなってしまう人がいるのも事実です。こども食堂に行きたいという気持ちがある人が、あまり難しくなくそれぞれに合った場所に繋がれるような社会になっていくといいのにと願ってやみません。

参加者の声としては、こども食堂でとても楽しく過ごしている様子が伝わってきます。何度も足を運んでくれる人がいると、この場所を気に入って安心して過ごしてもらえていると感じて嬉しくなります。

また、物価の上昇により、果物やお菓子などを真っ先に削るという声がとても多いと感じます。せっかくのギフトや支援の食材を大切に、できれば受け取る側により喜ばれるものであってほしいと思うので、NPO や企業、個人の方などでこれから新たに支援をしたいと考えている方は、そのような声があることを気に留めてもらえるといいなと考えています。

カーヤこども食堂運営委員会

木村